

令和4年度 都城市立山田中学校「学校評価及び改善計画」

目標	評価項目	生徒評価	保護者評価	職員評価	総合評価	現状分析	次年度に向けての改善策	学校運営協議会の意見
学力の向上	基本的学習習慣	3.1	2.8	3.3	3.0	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な学習習慣については、学習委員会で毎月取り組んでいる学習態度向上週間や学級担任の指導が継続的に実行されている。全体的な評価は昨年度と同等であった。 授業の工夫については、生徒・職員の95%がおおむね良好と感じており、わかりやすい授業の工夫がなされている。 個に応じた指導に関しては、生徒の95%が「分かる、できる」手立てがとられていると回答している。 家庭学習については、頑張っている生徒も多いが個人差も大きい。学力差にも現れており、家庭への協力をさらに促す必要がある。今後もICTの活用により、学びを家庭・学校間で積極的に推進していきたい。 家庭での学習の仕方については、生徒と保護者の間で肯定的な回答の割合の差が大きい。生徒の家庭学習の様子を保護者が知らないことが考えられる。各種検定への挑戦者は多く、意欲が高まっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習態度向上週間の取組がマンネリ化しないように、学習委員会に対して指導を行いながら、取組を継続していく。 わかりやすい授業を目指して日々の授業改善に努める。授業改善の4+4のチェックポイントを押さえるとともに、生徒が主体となる授業になるように努める。 各種テストなどの資料を分析し、生徒の実態を把握するとともに、個に応じた指導に役立てていくように努める。 家庭学習の仕方を生徒・保護者が共通理解していく機会を増やすとともに、ICTの活用を積極的に推進する。 学級通信での啓発やデイリーライフでの指導を通して、家庭学習に対する保護者の意識を高めていきたい。また、各種検定の紹介を積極的に行っていく。 	<ul style="list-style-type: none"> デジタルとアナログをバランスよく使い、生徒が自分に必要な手段を適切に選択できるようにして十分な形で送り出すのが学校と地域の役割で、計画的に進めてほしい。 ICTの導入により不安を感じる保護者が多く、ICTにより教育の可能性を広げていくためには、学校、教師、保護者それぞれが必要な役割を果たす事が欠かせない。 生徒自身が非常に好意的な回答をしている。わかりやすい授業や個に応じた指導を推進されている結果だと思われる。生徒と先生方の評価は高いのに保護者の評価が低いという事はもったいないと思います。今年度は参観日等で授業の様子を見る機会がなかったので、授業参観も計画してください。 ICTの活用が進んでいるようですが、課題の履修だけでなく、病気や、やむを得ない事情で登校できない子供に対しても、幅広く活用できればと考えます。
	分かりやすいように工夫	3.5	2.9	3.2				
	それぞれにあった教え方	3.5	2.8	2.8				
	メディアの活用等家庭学習の課題	3.6	2.7	2.6				
	家庭での学習の仕方	3.3	2.6	2.7				
豊かな心の育成	積極的にあいさつ	3.7	3.3	3.4	3.4	<ul style="list-style-type: none"> 積極的なあいさつについては、明るいあいさつができる。心優しい対応ができる生徒が多く、明るい雰囲気を保つことができている。 言葉遣いについては、生徒、保護者、職員とも肯定的な回答が90%を越えている。時と場に応じた言葉遣いができるようになってきている。 清心清掃については、生徒、職員ともほぼ100%が肯定的な回答であった。自宅での手伝いを充実するような指導も必要である。 メディア使用上のルールやモラルについては、おおむね良好と回答した生徒が95%、保護者は76%だった。メディアコントロール力は育ってきている。ICTの活用場面を家庭にまで広げたことが保護者の低さにつながっている。 相手の気持ちや立場を考えて行動することについては、肯定的な回答が生徒、職員はほぼ100%、保護者も92%であった。評価は高かったが、生徒への継続的な指導は必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> 朝の会や帰りの会で、「あいさつ運動」や「ボランティア活動」等と呼びかけ、さらに活性化するように日々の指導を確実に実行する。 常時指導として、時と場に応じた言葉遣いや呼称など、適切な指導を継続して行う。 本館を清掃場所として迎え、黙想し、清心清掃に没頭できる雰囲気を作るとともに気づき清掃の徹底に取り組む。 メディア使用上のルールやモラルに関しては、ICTの活用が進む中で高まっていくと思われるが、これまで設定してきた指導場面は残り、指導を行っていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> あいさつ&見守り運動、生活習慣、家庭習慣など凡事徹底を意識し、豊かな感性と社会に貢献する力の育成が望まれる。 生徒、保護者、教職員ともに肯定的な回答をしている。日常的に指導が行き渡っているからこそその結果だと思う。 校内や集団にいる時はよく挨拶してくれるが、個になった時がもう少しという感じです。 挨拶の良さや思いやりは充実し、評価が高く、湯上市訪問団もおもてなしの心や心配りの素晴らしさに驚かされていたように思います。 スマホの利用状況が増え、ほとんどの生徒が使用している昨今、メディアコントロールの充実が重要になると思います。 コロナ禍において、職業体験が中止になっている現状が悔やまれます。進学の方向性を決めるにあたり、将来の職業希望は大きな材料になるため、何らかの形で職業体験を進めてほしいと考えます。 コロナ禍で、なかなか評価しづらくなっています。校内ボランティアは実行されているようで安心しました。校外ボランティアも再開されることを期待しています。あいさつはしっかりとされていて、生徒の素直さを感じます。
	正しい言葉遣い	3.6	3.3	3.3				
	清心清掃	3.5	3.1	3.3				
	社会並びに行儀使用上ルールやモラル	3.6	3.0	3.2				
	相手の気持ちや立場	3.6	3.2	3.3				
体力の向上	正しい姿勢（立腰）	2.9	2.7	3.0	3.1	<ul style="list-style-type: none"> 正しい姿勢（立腰）については、各学期に立腰指導徹底週間を実施している。生徒、保護者とも指導されていることを感じている。 規則正しい生活については、おおむね良好と回答した生徒が86%に対して保護者は65%と低く、生徒よりも厳しい見方をしている。 体力テストの結果では、A評価を受ける生徒が男女とも多くなっているが、新型コロナの影響で運動量が不足しているためか個人差が大きくなっている。 部活動については、加入するすべての生徒が積極的に取り組むことができている。新型コロナの影響で活動ができなかった期間があったことで、生徒は活動を楽しみにしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 正しい姿勢（立腰）を意識するために、これまで通り、授業の始まりと終わりに立腰指導を常時指導として行う。 規則正しい生活については、今後とも学級通信や保健だより等で生徒、保護者に啓発していく。 体力向上については、さらに継続して体育の授業での導入段階で、基礎トレーニングを行い、筋力アップ・敏捷性アップにつなげ、A評価の生徒を増やしていく。 部活動については、「キャプテン会」を充実させ、始まりの時間や基礎トレーニングを一齐に取り組ませることで、体力・競技力の向上を図っていく。 	<ul style="list-style-type: none"> コロナ感染防止のため、体育大会、中体連大会、駅伝大会など活躍する場が減少傾向にはあるが、体力向上推進のスキルアップを図って欲しい。 部活動が減少する現状は、人数確保が難しく、野球やサッカーなどの大人数の部活動の維持が難しいようです。昔と違い強制的に部活動に参加しなくてもよいという時流もあるのかと思いますが、何かしらの部活には、必ず参加するといった方向転換は無理なのではないでしょうか？ 規則正しい生活に関しては、生徒と保護者で若干の開きが見受けられる。親は我が子をしっかりと見ていることがうかがえる。運動量の低下は、コロナ禍にあってはある程度は避けられないと考える。 コロナ禍で、外での活動が思うようにできないこともありますが、登下校時に車での送迎が多いように思う。自転車通学も体力向上に役立つと思いますので、極力自力で登下校するように指導して欲しい。 駅伝大会に参加する積極的な挑戦を評価します。
	規則正しい生活	3.3	2.8	2.9				
	体力の向上	3.1	2.9	2.7				
	部活動に積極的	3.7	3.4	3.0				
地域材への貢献	地域（山田町）に関心	2.8	2.4	2.3	3.0	<ul style="list-style-type: none"> 地域への関心については、新型コロナの影響で、地域行事等の中止が続く、肯定的な回答も低くなっている。秋田県との交流事業に絡め、中学校でも地域学習を取り入れる必要もある。 ボランティア等については、3年生と中心に参加する生徒が増えている。ボランティアの必要性を感じる生徒は、全体的に増えており良い傾向にある。 今年度は、アンケート実施後の12月15日（木）～17日（土）の日程で、中学生9名、引率5名の秋田県湯上市交流団を受け入れた。地域とも連携して無事に終えることができた。 家庭への情報提供については、保健だよりや学校保健委員会を実施し、新型コロナや健康の維持・増進に対する情報を提供することができた。また、学級通信での啓発も行った。 	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍にあり、今後の状況はわからないが、総合的な学習の時間を中心に地域学習を組み入れ、3年間で系統的に学んでいけるように設定していく。 通信に返信欄を設け、サインだけでもしてもらい、確実に情報が家庭へ届くようにしていく。また、特に大切な文書に関しては、メールを使って配信するなどしていく。 秋田県湯上市との学校間交流事業を継続し充実させる。次年度は、湯上市へ訪問する予定である。 	<ul style="list-style-type: none"> ふるさと教育において、地域等で自分ができることを見つけ今日の努力を明日の夢につなげる啓発活動を育む。 ボランティア活動など、地域の「まち協」等と連携した教育活動の推進と行事への積極的な参加を奨励して欲しい。学校支援ボランティアの会ももう少し活用してください。 生徒のボランティア活動への意識が高いことは、すばらしい。湯上市との交流も無事終了し、貴重な体験になったと思われる。地域連携も充実できたと思います。学校間交流は続けていきたい事業です。 コロナ禍の影響で、イベントが少なくなっている影響もあり、地域貢献に対する考えが弱くなっているように思えます。ボランティアに興味のある生徒は増えているので、この興味の勢いを衰えさせることなく、地域イベントの復活と、行事参加ができる時勢になることを願っています。地域のボランティアが参加できる機会を何とか作っていただきたいものです。
	地域と関わる活動ボランティア活動等	3.2	2.2	2.7				
	家庭への情報提供	3.5	3.1	2.8				
PTA活動	広報活動		3.3	3.2	3.2	<ul style="list-style-type: none"> 広報活動については、学校だよりやPTA新聞の発行だけでなく、ホームページやメールの配信も行い、学校の様子や案内文書がより確実に伝わるようにした。今後も充実させていく。 開かれた学校づくりについては、新型コロナのために中止や入場制限を設定せざるを得ない状況であった。体育大会、紫峰祭、駅伝・ロードレース大会、学校保健委員会など、内容はできるだけそのままに開催したからか、生徒、保護者とも肯定的な回答が90%を越えた。 家庭と学校の連携については、愛校作業の中止などで連携の機会は減ったが、肯定的な回答は87%と高かった。 	<ul style="list-style-type: none"> 今年度は、ホームページのブログ配信と学校メールによる速報配信を行った。定期的に発行する学校だより、学級通信、学年通信等と併せて保護者や地域との連携を高めていきたい。 学校行事への参加率80%越えを目指していきたい。また、参観日の日程、学級懇談の内容を工夫し、多くの保護者が出席したくなる手立てを取っていく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍でPTAと学校を取りまく関わりで、行事や学習指導、生徒指導の連携を図る取組の充実が求められる。 ホームページの充実を高く評価します。学校だよりやホームページ等で広く情報を発信し、開かれた学校づくりを推進されている。保護者も好意的な回答が多く、連携が図られていると感じる。 まち協が毎月発行している「いきいき通信」も有効活用して、地域の皆さんが学校を身近に感じてもらえるように発信してください。 既存のPTAイベント（綱引き大会やマラソン大会後の餅つき）が開催できないのが現状ですので、代わりになるようなイベントの考案も必要かと考えます。
	開かれた学校づくり		3.3	3.4				
	家庭と学校の連携		3.3	2.8				